



りんごだより

2026年 9月号 草笛学園

9月に入りましたが、まだまだ暑い日が続いていますね。全国的にはインフルエンザが流行入りした、とのニュースも流れていましたね。これからだんだんと朝夕が涼しくなっていくと思いますので、しっかりと体調を整えて、元気に秋を迎えたいですね。



＊「おいしいねえ」と言える形容詞の世界＊

「おいしいねえ」、「きれいなお花だね」、「冷たいお水、気持ちいいねえ」など、3歳になりゆく子どもたちのなかに、形容詞の心地良い響きを感じれるようになります。ことばが出はじめた1歳児でも、花を指さして「きれい、きれい」と言うかもしれませんが、本当に、心を込めて「きれい」と言えるようになるのは、やはり3歳になってからです。

ときどき保育所の先生から、5歳、6歳になって、特定の事物の名称はいっぱい覚えるのに、経験や感情をことばにすることが少ない子どもたちのことを相談されることがあります。そんな子どもたちのことばに、形容詞の世界がみられにくいことがあります。それは、なぜでしょうか。

「おいしい」、「きれい」などの形容詞は、その食べものの味を感じ、その花の美しさを感じる感情とともに獲得されていくことばです。そして、このような感情は、子ども一人ではつくることのできない力です。おいしいごはんを食べたときに、「おいしいねえ」と言い合える人、きれいな花を見たときに、「きれいだねえ」と言い合える人、そんな関係があってこそ、作りだされていくことばの世界です。共感とは、あまり感興のないことばですが、しかし文字通りの「共に感じる」という意味は、子どもの発達にとっては価値のある響きをもっています。常に子どもと同じ視線の高さで、子どもの心のなかに入って世界をながめていると、子どもが感じているであろうことが、自然におとなの口をついて出てきます。そして、そのことばによって、子どもは自分の心のなかの感情を表すことばを知っていくのです。



障害をもっている子どもたちの生活を見ていると、食事ではまず偏食やマナーの指導があったりします。それもたいせつかもしれません。しかし、それだけの生活になるなら、子どもの心の中に、「おいしいねえ」と言い合える感情はつくられているのでしょうか。まず、人としての心が育つ、そんな生活を私は、この子らのために願っています。

参考文献 『発達の子・上』 白石 正久 著

<10月のりんご教室について>

- ・りんご①：10月6日（火） 活動：ダンボールすべり台
- ・りんご②：10月20日（火） 活動：ダンボールすべり台

★工事の影響で、時間が変更になっています（9：50～11：20）

持ち物（①②とも同じです）・・・シューズ、水筒、リュック、帽子、必要に応じて着替えやタオル

『参加される皆様へ』～ご協力お願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・**参加費はいりません。製作や、クッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。必要時には『りんごだより』にてお知らせします。おつりのいらないよう、準備をお願いします。**
- ・草笛学園遊戯室での活動となります。
- ・水分補給のため、お茶か水を用意して下さい（ジュース類は控えてください）。
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください。
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください。

